

## 1. 研究室概要

大学名	首都大学東京		研究者	串山 久美子
			職位	教授
研究領域	インタラクティブ・メディアアート		窓口担当	産学公連携センター
研究キーワード	メディアアート、インタラクティブ、インタフェース、触覚ディスプレイ			
住所	〒191-0065 東京都日野市旭が丘 6-6			
電話	042-677-2729	E-mail	soudanml@mj.tmu.ac.jp	
FAX	042-677-5640	URL	<a href="http://ideea.jp/">http://ideea.jp/</a>	

## 2. 技術PR事項

### 『インタラクティブアートを研究、新しい創造表現を目指す』

メディアアートは先端の科学技術を取り入れた新しい芸術表現の試みです。特に、インタラクティブなインタフェースの開発と表現の研究を行い、新しい創造表現を目指します

#### 1. 概要

インタラクションデザインを軸に工学と表現領域にまたがる研究を行う研究室です。人間とコンピュータをつなぐインタフェースやインタラクションのあり方を日夜考えています。具体的には触覚、映像、音をインタラクティブに扱うインタフェースを開発し、新たなコミュニケーションを創造する研究などをアイデア、設計、実装、検証、最終のデザインのアウトプットまで一貫した研究が行われています。

国内外の科学館、美術館への作品展示を行っており、一部作品は企業とのコラボレーションにより商品化しています。ACM SIGGRAPH2011,2012Emerging Technologies 部門採択など国内外で精力的に活動をしています。

#### ● 観て、触れて、感じるディスプレイの研究と開発

「Thermoesthesia」(サーモエステシア)は冷温感覚を、「Magnetosphere」(マグネツトスフィア)は砂状の硬軟感覚を、「Fur-Fly」(ファーフライ)は生物のようなふわふわ感覚を、インタラクティブに表示できる触視覚ディスプレイを使用した作品です。映像と音と温度、触覚を融合させた新しい表現やインタフェース開発を試みました。表現のみならず、デジタルサイネージや障がい者支援など日常の情報活動をも支援する触覚コミュニケーションの可能性を提案しています。



#### 2. 希望する連携内容(共同研究、試作品作りなど)と相談に対応できる技術分野

触れるインタフェースの活用に興味のある方との共同研究やご相談に応じます。福祉、教育、エンタテインメント、玩具、イベント、展示など一緒に実用化を図りませんか。スマートフォンを利用した呈示も開発中です。

## 3. 特記事項

#### ● 代表論文:

- 1) 串山久美子、笹田晋司、生物感覚を提示する毛状視触覚ディスプレイ「Fur-Fly」日本バーチャルリアリティ学会論文誌 Vol.15 No.3 pp.459-462 2010
- 2) 共著: 次世代ヒューマンインタフェース開発最前線、エヌ・ティー・エス、2013